

(様式2)		令和4年度 自己評価表					鳥取県立鳥取養護学校	
中長期目標 (学校ビジョン)		夢や希望に向かい 自分らしく輝いて たくましく生きる力を育む			今年度の 重点目標	《キーワード》「前進」		
年 度 当 初					(9)月			
評価項目		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
各学部の取組	小学部	○キャリア教育の「小学部でつけておきたい力」を意識した授業づくり	○障がいの程度が様々であり細かなケアや観察が必要である。 ○日々の生活や卒業後の生活について心配に感じている保護者も多く、情報提供したりするなどの関係づくりが重要となっている。 ○キャリア教育の視点で付けたい力と授業のねらいとのつながりについて、教職員だけでなく保護者とも情報を共有していく必要がある。 ○授業の充実については、学部の勉強会やグループ学習などで、他クラスの実践を知る機会を設けている。	・担任や学校がキャリア教育の「小学部でつけておきたい力」の視点で授業等のねらいについて保護者へ説明したり、福祉や進路に関する情報提供を行ったりして、保護者の7割以上が、知りたい情報を得ることができたと感じている。	・福祉や進路に関する情報について保護者のニーズを細かに聞き取り、適宜情報提供する。 ・クラスの実践を報告する勉強会を継続する。 ・機会を捉えながら他クラスに入って実践を参観できる場面を設定する。 ・他クラスの実践を参考にできるよう、廊下掲示や学級通信、学部通信などの掲示方法や通信の保管方法を工夫する。 ・学部主事や副学部主事、キャリア教育部が、学部会や勉強会で実践や事例をキャリア教育の視点で整理して紹介し、情報を共有できるようにする。	・各通信等で、保護者への進路に関する情報提供やキャリア教育の視点についての説明などに努めている。保護者のニーズの集約ができると、より必要な情報提供ができると感じる。 ・ミニ研修で、卒後を見据えたキャリア教育の視点での学習や支援の在り方についての情報共有に努めた。他クラスの教室環境設定や支援について情報交換する勉強会を設定し、1回実施した。授業参観は実施できていない。	C	・保護者の進路情報に関するニーズの聞き取りを行い、より必要とされている情報の提供を行う。 ・保護者によりキャリア教育の視点を持ってもらえるよう、学習や活動の意図について通信などで紹介する。 ・学部勉強会や学級通信の回覧などで、他クラスの授業実践や支援についての情報共有を図る。
	中学部	○自己実現に向けて、一人一人の実態や課題に応じた授業づくり	○正確な実態把握を行うためには、生徒を見取る力を高める必要がある。また、授業力向上のために、効果的なICT活用や教材・支援、授業展開の工夫などに継続して取り組む必要がある。 ○進路学習について、様々な状況に応じて学習内容を考え、計画的に実施することが必要である。また、生徒や保護者のニーズを聞き取り情報提供を行うことが必要である。	・職員、生徒の8割以上が、生徒自身で時間を意識し、自分で行動できることが増えたと感じている。(単一) ・職員、保護者の7割以上が、生徒の実態や生活年齢に応じた学習や適切な集団学習の工夫ができたと感じている。(重複)	・生徒を見取る力につながる学部研修を行う。また、定期的に単一会や重複会を実施し、複数の教師間で頻繁に生徒の情報交換を行い、生徒の実態把握や授業の充実に努める。 ・時間通りに授業を開始する意識を徹底し、事前準備や生徒への声かけに努める。 ・生徒一人一人の病気や障がいに応じた適切な支援を行うために、保護者・関係機関との連携を深める。また、進路指導主事と連携して、個々の実態を踏まえた進路学習(合同、個別)を計画し、実施する。	・生徒が自ら時計を見て行動したり声をかけ合ったりする姿が増えてきた。職員も時間を意識した行動や声かけが増えてきた。時間の意識が芽生えつつあるが、授業開始間際になっても休憩している姿も見受けられる。 ・昨年度より集団学習を行うことが増え、担任間で生徒の情報共有や学習計画の共通理解に努めた。しかし、グループ内で生徒の実態把握や授業内容の充実に向けた十分な話し合いまでには至っていない。 ・学部研修を実態把握や教科学習に関わる内容で3回行うことができた。	C	・時間を守ることが生徒の習慣となるように、引き続き時間に対しての意識を強く持って行動したり声をかけ合ったりしていく。 ・単一会、重複会で授業内容の充実につながる話し合いができるように努める。また、日々の指導に生かされる内容を精選しながら定期的に学部研修を行っていく。
	高等部	○ 生徒のキャリア発達に即した授業づくり	○現在できていることを継続しながら、生徒の変容に着目した授業改善の評価をし、さらなる改善に努めることが必要である。	○キャリア発達の視点で授業・体験活動等の工夫・改善を行い、生徒の学びを促進しようとしている。	・キャリア発達、生徒一人一人のキャリア教育目標について共通理解をする機会を設ける。 ・単一会、重複会や子どもを語る会等で情報交換を行い、生徒の実態把握や授業の充実(教材の工夫や体験・集団活動の工夫・ICTの活用)に務める。	・学部会でキャリア発達、生徒一人一人のキャリア教育目標について共通理解することができた。また、単一・重複会の話し合いでも、目標に触れる場面を作ること、日々の生活指導、学習指導でキャリア教育の視点を意識できつつある。生徒のこと、授業づくりについての確認、情報交換をする機会も増えてきている。 ・テレワーク実習や外部講師との学習など体験学習やICTの活用にも努めた。進路・情報担当と連携し、学習の充実も図ることができた。一方で、必要な情報が共有されていないことや授業づくりの課題も見えてきた。	B	・重複会、単一会の情報共有の方法について工夫する。 ・授業づくりのための勉強会や情報交換をする機会を設定する。 ・教師間で、放課後等に授業づくりや生徒の成長を話題にし、頻繁に情報交換を行う等、生徒の実態把握や授業の充実に努める。
一人一人の生活や可能性を広げる多様な学びの開発	教務部	・年間計画の見直し、運用 ・個の学びをつなぐ授業づくり	○昨年度のまなびのプロジェクト、教務部会の中で、個別的教育支援計画等の様式改訂にむけて協議し、素案を作成した。運用、手順等については検討が必要である。 ○個の学びをつなぐ個別の指導計画と年間指導計画等について検討が必要である。	・個別的教育支援計画等の様式が改善され、個の学びをつなぐ作成物が整理されて、次年度にむけて運用している。	・まなびのプロジェクトと連携し、現在の様式についての課題を洗い出し、年間計画の中に位置づけながら、計画的に取り組む内容について関係の分掌と検討、整理していく。 ・諸計画の見直しの必要性や改訂の方向性について研修をしたり、作成の手順について共通理解したりする機会を持つ。	・まなびのプロジェクトと連携しながら、昨年度までにまとめられた諸様式の課題や案をもとに検討し、新しく作成した素案を職員会で提案した。各学部会からの意見の集約も行った。それをもとに今後も検討を重ね、年間計画にそって次年度運用につなげていく必要がある。また、単一学級における年間指導計画や個別の指導計画、通知表の書式の検討も行われ、試行や運用へと進めることができた。 ・職員研修を実施し、諸計画の見直しや改定の方方向性に関する共通理解を行った。研修の内容を活かしながら様式改訂に向けた検討を進めて素案を作成した。	C	・職員からの意見を取り入れながら、個別の指導計画(重複学級)における教科の目標、評価の書き方等について整理する。年間指導計画とのかかわり、1年間の流れ等も検討して提案していく。
			まなびのプロジェクト	○児童生徒の個々の学びをつなげるための具体的な取り組みについて、個々の分掌だけでなく、学校全体で課題を共有し、取り組む必要がある。	・学校経営方針の重点事項について、半数程度の項目で改善がみられる。	・進捗状況については、適宜掲示板等で全職員に見えるようにしていく。	・様式の見直しや「とりようのトリセツ」の充実等、分掌間にまたがる業務について相談しながら、課題解決を図ることができた。プロジェクトの進行状況についても随時、掲示板で発信することができた。	C
	教育企画部	多様な学び(行事等)の工夫	○作品展示やわくわくフェスタ等について、新型コロナ感染症の影響で、例年とは違った形での運営がなされ、職員も保護者も行事の実施に見通しが持ちにくい状況であった。 ○図書館の運営についても、同様に学級単位の利用を基本とするところであったが、図書館利用のルールについて職員への共通理解が不十分なところがあった。	・わくわくフェスタや作品展示等の実施した際の児童生徒の満足度が7割以上ある。	・わくわくフェスタは、複数の実施形態を検討の上、形態決定する時期を定め、職員、保護者に事前に周知する。実施については、最大限多くの保護者や児童生徒が参加できる形態を検討する。 ・作品展示については、WEBを活用し、新型コロナ感染症の影響を受けにくい形で実施する。 ・図書館の運営については年度当初の職員会や掲示板等を活用して、利用のルールを周知する。	・わくわくフェスタについてはスケジュールどおり準備ができていた。一方で、担当者間での情報共有の機会を設けた方が良かった。 ・作品展示の方法については、WEBによる形態での実施を決定した。 ・図書館運営の計画、利用のルールについて年度当初に提案することができた。また、利用ルールについては、定期的な確認があると良かった。	C	・わくわくフェスタ実施後のアンケートが次年度につながるように様式について検討をする。 ・図書館のルールについて、掲示板等を通じて、定期的に呼びかけていく。
情報教育部	ICT機器を活用した学習指導の工夫	○ICT機器が整備されており、視線入力装置に関しては、利用のニーズも高い。その他のICT機器や、iPadのアプリなどについては、使用頻度、使用状況が職員間でかたよりがある。	・ICT機器やアプリの利便性、実用性が広まり職員がICT機器を活用している(新しい使い方をしている) ・ICT機器を活用した授業を8割以上の教員ができる。(評価基準を示したアンケート用紙を年度末に配布する。)	・ICT機器の活用事例を教職員共有の掲示板にあげ、共有する。 ・ICT機器が活用しやすい環境整備と支援体制に努める。 ・ICTサポート支援事業との連携を密にし、活用する。	・各クラス、ICT機器の活用がなされている。しかし、活用方法の共有が教員間であまりなされていない。	C	・今後もICT支援員との連携を図り、研修や掲示板などとおして、ICT機器の活用推進に取り組んでいく。	

